

●36 回京都木津川マラソンへのかかわり方について 請求方式から契約方式も一つの改善策 これまで大会が終了後に必要な経費の精算請求を行ってきました。大会前の準備は多くの仕事を行ってきました。そして一週間前には終日の作業が連日続きます。そして当日は午前7時には作業が始まります。最終ランナーのゴール後に後始末があり、翌日は後始末、コースの点検や物品の収納があり少なくとも3〜4日連続します。里山の会がボランティアとして行ってきました。ここでの経費を集約して事務局に折衝して幾らかの支払いがありました。それが35回からは当日以外の作業は有償をと意見をあげてきましたが、ここでの方針が食い違って複雑な問題となり、解決方向が見いだせなくなりました。従って事後の請求方式から、契約方式を提案して、事前に課題を整理する取り組みを提案することを事務局会議ではまとまりました。第2回理事会で里山の会の提案を行います。

●動力式竹割幅精製機の製作が進む 12日 機械化によって淡竹でも素材精製が可能になれば、一挙に蛇籠の製作が大前進です。真竹に比べて淡竹は節の間隔が短く少し扱いが難しいといわれていますので、淡竹にひび割れをしっかりと行えば破竹の肉厚のところを補えるのではないかと考えています。今回の取組で大いにテストを行い、出来栄の面から判断して今後に生かせればと思っています。木津川には比較的手ごろな所の竹は大部分が淡竹なのです。また真竹はかなり太くて手ごろなものは探し出さなければならず、選び出すのに時間がかかりかかります。改善に期待しています。製作依頼した高橋慶平氏はかなり悩み工夫に工夫を凝らしてやっと動力源の最大の課題をクリアして製作に取り掛かっていただきました。大きく期待しているのですが、試作品が能力を発揮するには時間と修正改良が必用です。同時に耐久性も求められますので、これからが大仕事です。

●白土山コースのロープ設置は14日500mを張られる。 森島、金田さんが猛暑連続の中実現。 里山農園の取り組みを始めた10年前からこの先に磨き砂の産地がこの奥にあったと随分と聞かれました。最初に分け入ってみますと祝園弾薬庫の有刺鉄線に出逢ったところに洞穴を発見。昨年まで里山農園の復旧に全力を繰り広げてきましたが、昨年夏原グラントの助成金をいただくことになり、今年度の助成金で白土山の洞窟までの通路の確保を計画しています。かつて地域の大きな現金収入源を果たしてきた貴重な施設であり、地域の暮らしを支えてきた地域遺産として日の目を見させてやりたいと考えてきました。今回夏原の活動資金を受注したからには何が何でもコースの確立を図りたいと取り組んできました。何回も調査を繰り返し、コースの確立が出来て、14日にトラロープで道筋を確定できました。さらに貴重な生き物や貴重な植物の宝庫であり、弾薬庫という特殊な施設を目の当たりに確認できる施設として貴重であります。また希少植物の宝庫でもあるので、里山農園の貴重な財産として大切に保存すべき活用すべきと考えています。

●19日の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」の最終回は中止です。 水位低下で魚とり不可能 熱中症も懸念して止む無く中止 今年度は親子で遊ぼう学ぼう魚とりを7回計画しましたが、命に危険が迫る高温が続き、水分の補給が強く叫ばれました。屋外での行動をできるだけ控えるようにと強く叫ばれ、熱中症による死亡が連日報道されました。異常豪雨が続き災害が発生するという夏で、魚とりを期待していた子どもたちにとっては厳しい夏になりました。こうした背景に、やむなく中止は19日を含めて3回に及びました。増水や渇水、異常高温に加えて台風の影響(コースも変則)で異常続きでした。今回最終回として予定していました19日は、渇水のために木津川本川の水位が低下し魚の棲み処となる水辺の草よりもかなり低くなってしまっただけで魚とりなどとても考えられない状況になっています。もし万一雨が降ってくれると期待していますが、増水すると濁ってしまっただけで、とても魚とりなど行うことが出来ません。まして幼児を含むことにもなりますので無理はできません。現在の状況では中止をせざるを得ないと判断しました。たいへん心苦しいのですが、自然を相手の取組なので、よろしくご承知ください。

●もし日程が合えば前日の18日には三川合流部のさくら出会い館を主会場に午前9時30分集合で京都子どもの水辺の取組を開催しますので、ご参加されるといいのではないかと思います。午前中は水辺で活動する子どもたちの活動発表や体験を学びあい、午後からは昆虫観察やカヌー体験を計画しています。昼食や水分、着替え、しっかりした靴などを用意してお越しく下さい。原則チーム参加が基本ですが、こられた皆さんで編成も可能です。ご案内とさせていただきます。昨年は64名の参加がありました。指導は桜谷先生や北野大輔君、小林慧人君、福井波恵さん、中西佳代さん、大釜さんなど里山の会のフルメンバーが当たります。ご期待ください。

●今年の魚とり体験の7回の計画のうち3回が中止となりました。必要備品を充実させる小型水槽やたらい等、各5組を購入し充実ができました。先ほども述べましたが5月27日から始めた親子で遊ぼう学ぼう魚とりは7回行うことにしました。例年ですと予期せぬ出来事は1回ぐらいいはあって中止もありますが、今年の異常高温は格別です。特に小学生が学校に帰ってからのちに死亡するという出来事は大きなショックな出来事でした。こうした背景にあって、無理はできないということで、木陰のない会場の場合には無理だと判断しました。そして3回も中止に至りました。期待をされていた皆さんには、まことに申し訳なく思っています。安心して遊べる水辺目指して努力していきたいと思えます。これに懲りず無理せず楽しんでいただける場づくりに取り組みたいと

思っています。その節にはご協力をお願いします。

●お盆にもかかわらず木津川希少種生育調査業務 除草実施 8日有田、9日有田津川播川森島、12日(土)有田津川播川さんが頑張る。今年から本格的に1年間を通じて木津川の希少種生育調査業務が里山の会に発注され、107カ所の生育地の調査、そして28カ所の生育地の除草作業が始まりました。植物はそれぞれ開花時期が違っていますので、希少種の保全のためには開花が済み結実し種が散ってのちに除草すること、あるいは芽が出る前に生育を妨げる植物の除草を行い成長の障害物の除去作業などが必要になります。従って一斉に除草作業を実施することにはならず、時期を調整して除草となります。今年のように異常な暑さの中での除草作業は大変です。午前6時から出勤して9時過ぎには戻る涼しい朝のうちの作業となります。皆さんの勤務などの都合があって、毎日連続ということにもなりませんので、お盆でも都合のつく時間に作業を実施しました。本当にご苦労様です。こうした苦労をしながら貴重植物レッドデータ記載植物の保全に取り組んでいるのです。できましたらご協力お手伝いにお越しく下さい。ご連絡をお待ちしています。

●18日 第2回京都こどもの水辺は予定通り開催します。里山の会の魚とり指導者の北野小林福井中西各レンジャーがそろって集合してくれます。また新レンジャー目指して頑張っている大釜さんも張り切って準備に精を出していただいています。木津川の水位はものすごく低下していて、砂洲がすっかり大きくなって随分と環境が変化しています。午前中は参加者の日頃の活動や遊びの中で感じたところを発表し、話し合います。指導いただく皆さんからもお話をたくさん聞くことになります。昼食前には展望台に上がって巨椋池や三川合流について学びます。午後には昆虫観察体験、カヌー体験を計画しています。桜谷先生や近畿大学の学生さんから教えていただきます。中でもメダカについて研究している田井魁人さんからとっておきのお話が聞けるかもきっと目のうろこが落ちると思います。期待しています。カヌー体験は藤田カヌーさんが7艇用意していただくことにしています。存分に楽しんでください。濡れるかもしれないので、着替えの用意もお忘れなく。もちろん飲み物は十分持参くださいね。

●草内倉庫の草刈 見違えるようにきれいになる お盆を前に草内倉庫周辺の草刈りが行われました。刈り取った草はたちまち水分が蒸発して一日で枯れてしまいます。掃き集めると本当にきれいになりすっきりしました。小屋の東側には不法投棄された巨大なタイヤやシートのような大きなものも捨てられています。草が生い茂ってしまう時にはなかったのですが、大量に現われました。道路際なので、常に清潔にしておかないとこういうことになるのです。

●倉庫と農園の枯れ木の処分を早く行うことです。 倉庫の前庭に昨年末に運び込んだナラ枯れ木の割り木が高く積まれて半年になり水分は蒸発しすっかり軽くなっています。片付けきれいな広場にしなければと思います。枯れ木ですが必要な方がおられたら、お引き受けいただければありがたいところです。

●8月25日は中聖牛に使用する竹蛇籠の製作着工日です。ここ数回の事務局会議で提起されてきた、中聖牛の設置について、作業着工日を8月25日(土)に行うことを確認しました。そして中聖牛の3基増設竣工日を10月6.7.8日と計画します。この作業は2回の経験から、竹の切り出し作業は太さ20cm以内のもの揃えることです。選び出すことが困難ですが、後の作業の軽減の第1歩で、能率のアップになります。竹蛇籠を編むときに竹の幅がまちまちだと曲がり具合に強弱が出て、仕上がりに大きな差が生まれます。素材の竹の幅を揃えることが最も肝心です。選び出しに続き、割り作業と幅精製作業に時間をかけて良い材料を整えたいと思っています。そのためには高橋さんをお願いしている自動竹割り機幅精製機の完成が待ち望まれています

●第24回里山講演会 9月1日 13時開場 京田辺市中央公民館 全会員のご出席をお願いします。【大阪西部地震と東南海地震】=その時どうする～と題して 防災士の有本敏雄さんの講演 次に「竹の花が咲いた」と題して京都大学院2回生の小林慧人さんから報告を頂きます。できれば異常気象についてお話いただける講師を求めています。どなたかご紹介ください

●24回通常総会・第2回理事会を8月24日(金)16時00に里山の会事務所で開催します。主な議題は●報告事項として●活動方針の到達点 ●ボトムアップ方式 ●市域力再生事業 ●夏原グラント活動事業 ●結成24周年記念事業 ●木津川希少種生育調査業務 ●第36回マラソン大会へのかかわり方提起 ●労務提供の集約 ●個別専門会議の取組み ●会計報告 ●現金有り高 ●中間執行表 ●収支計算書 ●里山農園報告 ●会費未納者 ●役員・会員一覧 ●特別報告 ●中聖牛設置方針などについて議論を深めます。理事各位の皆さんはご欠席なきようお願いします。また理事各位は、連絡した項目について報告資料をご準備ください

●秋の取組み主な日程

8月25(土) 竹蛇籠着工日 8月26日(日)ピワコミ会議 9月1日第24回里山講演会 京田辺市中央公民館
9月16日(日)自然環境保全京都府ネットワーク天然記念物アユモドキの里を訪ねる 9月30日(日)城陽市緑化フェスタ
10月6・7・8日中聖牛設置竣工日・予備13日 11月3・4日京田辺市民文化祭 11月17日白土山観察コース竣工式
11月18日京田辺市環境フェスタ 12月8・9日京都府環境フェスタ 12月22日オオムラサキ観察会

第22回 里山講演会 ご案内

西日本豪雨に続く猛暑の連続、命に係わる気温、逆コースをたどった台風と異常な気象現象が連続しています。そして近畿地方中部では雨が降らず農作物に被害が生じてきています。こうした現象について若手研究者の皆さんからお話を伺いたいと思います。こぞってご参加をお願い申し上げます。

9月1日(土) 防災の日

13時開場 13時30分開演 16時15分まで

京田辺市中央公民館

「異常気象と災害 その原因？」

講師 気象予報士 大阪大学院生 南口侑希氏

「大阪府北部地震と南海トラフ地震」

そのときどうする

講師 防災士 元気象庁職員 有本敏雄氏

「竹の花が咲いた」 京都大学院生 小林慧人氏
「メダカの研究」 近畿大学農学部 田井魁人氏

参加費 無料 申し込み不要 先着順 満席で入場お断り
問合せ 0774-64-4183 (fax 兼用) ホームページ参照

主催 自然を大切にする仲間の輪を大きくする
NPO法人 やましろ里山の会